



# みらいつうしん

2月号

2021年2月1日  
 田園調布学園大学  
 みらいこども園  
 園長 勝浦 芳子

## 子どもが育む力

暦の上では、節分を終えると春を迎えますが・・・今年の冬は、寒暖の差が激しく、コロナウィルス感染の心配を抱きながらの生活は、何かと体調を崩すことやストレスを感じ易い気がいたします。2回目の緊急事態宣言が発令され、約1ヶ月が経ちますが、胸を広げて喜ぶコロナ終息が見える春はまだまだ遠いところにあるようです。保護者の方には、日頃からみらいこども園における感染症対策と教育活動の両立に対し、ご理解とご協力をいただき心から感謝をいたします。

さて、最近の子ども達の様子に目を向けると、にじ組さんは、小学校就学に対する意識がより高まり、ランドセルや机、どこの小学校へ行くかななどの共通の話題に花が咲き、仲間意識も強くなっています。そら組さんは、もうすぐににじ組さんになるという嬉しさからか、積極的に物事を理解し行動する姿を垣間見ることがあります。ほし組さんも伸び伸びと生活を楽しんでいる中にも約束やルールが分かってきて、友達同士声をかけ合う姿も見られ、1つのことに集中する時間が長くなってきました。乳児クラスも、動きが活発になり、ことばや出来ることが増えたことから、人に伝える喜びを感じて、とても表情が豊かになっています。

先日、にじ組さんのクラスに遊びに行くと、「園長先生に折り紙教えてもらったから、手編みのマフラーをあげる」と指編みで作った長〜いマフラーをプレゼントしてくれました。「ありがとう」と言って受け取ると、「コロナの中みんなのためにこども園開いてくれてありがとう。大変だよな。」と言葉が返ってきました。近くにいる子どもからも、「マスクはコロナから守るんだよね」「コロナに感染すると死んじゃうんだよね」「たくさんの方がいるところはいいかな方がいいんだよ」「レストランでご飯食べるのはだめなんだよね」と次々に声があがりました。また、園内の壁に、「8時以降は飲食禁止」という張り紙をする子どももいて、しっかりと世の中の様子を受け止めて、園内もコロナ禍における小さな社会が形成されており、子ども達の適応性にはつくづく感心させられます。一方では、今月の行事に予定されている「ワクワクげきじょう」に向けて、劇遊びが盛り上がっていて、「これは、絵が上手な〇〇君にお願いしよう。」「これは、〇〇ちゃんの出番…」と、友達の才能や良さを認め合い協力して一つの作品を作り上げていく姿が多く見られます。時に、お互い意見が違ってもけんかするのではなく、話し合っ解決することも出来るようになり、日頃から人と関わる活動や遊びの中で身についた人と生活していく術をそれぞれが発揮している証だと胸が熱くなりました。にじ組さんにとっては、今回の「ワクワクげきじょう」は、こども園の集大成を発表する時でもありますので、それぞれが満足感や達成感が得られるように活動が進むことを願います。乳児さん、ほし組さん、そら組さんにとっても、進級に向けて、今が一番充実感を得られる大切な時期ですので、園生活で共同性を学び、一人一人が自信を持って活動できるように私たち職員も環境を整え、教育・保育を行っていききたいと思います。どうぞ、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

